

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	非線形誘電率顕微鏡法を用いた界面電荷輸送現象における諸問題の起源解明
研究代表者	長 康雄（東北大学・電気通信研究所・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>応募者は、世界最高感度の静電容量変化を検出できる走査型非線形誘電率顕微鏡（SNDM）を実現し原子分解能も達成している。本研究では、これまでの実績を踏まえて、その高機能化と更なる多機能化を目指している。研究内容及び研究計画は極めて独自性が高く、応募者の高い研究遂行能力から大きな研究成果が期待できる。しかしながら、プローブと観測対象との相互作用が複雑化するため、計測が正しく行われているのか、定量性はあるのか、などを客観的に評価できる理論グループとの連携が望まれる。</p> <p>本研究は当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であることから、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>